

都市公園制度制定 150 周年記念事業実施報告

1. 実施概要

令和 5 (2023) 年は、公園設置に関する太政官布告から 150 周年を迎える記念の年となることから、これまでの我が国の都市公園の歴史や果たしてきた役割を振り返りつつ、公園の意義・必要性を国民一般に広く再認識していただくとともに将来に向けた公園のあり方を提案・発信していくことを通じて、都市公園の更なる発展を図るまたとない機会となる。この機会をとらえ、国・地方公共団体・関係団体が連携した取り組みを進めることとした。

(1) 期間

太政官布告が 1 月に発せられたことを踏まえ、令和 5 年 1～12 月の 1 年間にわたり、記念事業を行うこととした。

(2) 推進体制

都市公園の整備・管理に関わる国・地方公共団体・関係団体が連携して効果的な取組を進めることに鑑み、これらの者を構成員とする推進委員会を設置した。

推進委員会において、記念事業全体の取組方針を整理し、全国の地方公共団体及び全国レベルの関係団体（緑・公園関係団体協議会構成団体）に対し、文書等にて取組実施への協力を呼びかけた。（地方レベルの関係団体には、適宜、関係する地方公共団体から呼びかけを行ってもらうこととした。）

(3) 取組方針

これまでの周年記念事業の取組内容も参考に、①都市公園制度制定 150 周年記念全国大会の開催、②都市公園制度制定 150 周年記念顕彰、③地方公共団体等における「都市公園制度制定 150 周年」を記念する事業の実施、④都市公園制度制定 150 周年関係の刊行物の作成、の 4 本柱を軸とした取組を行うこととした。

個々の事業の実施に当たっては、実施団体の自主性を尊重することとし、実施内容に過度な重複が生じないように、必要に応じ推進委員会で調整を行うこととした。

(4) ロゴマークの制作

推進委員会より(一社)ランドスケープコンサルタント協会へロゴマークの制作を依頼し、作成されたロゴマークについて、推進委員会に報告のうえ決定した。決定したロゴマークを推進委員会より、地方公共団体、関係団体等へ配布するとともに、日本公園緑地協会及びランドスケープコンサルタンツ協会のホームページにおいて公開し、その活用を推進した。

2. (一社)日本公園緑地協会における取り組み

日本公園緑地協会では、都市公園制度制定 150 周年記念事業の推進事務局として、地方公共団体、関係団体等のご協力を得て、基本方針に沿って、以下のような取り組みを実施した。

(1) 記念フォーラム・全国大会の開催

①記念フォーラムの開催

都市公園制度制定 150 周年記念事業のキック・オフ・イベントとして、1月17日に日比谷図書文化館日比谷コンベンションホールにおいて、記念フォーラムを開催した。五十嵐康之国土交通省大臣官房審議官(当時)の基調報告「都市公園 150 年の歴史と今後の展望」、越澤明北海道大学名誉教授による基調講演「太政官布達から 150 年」などを行った。(資料 1)

②講演会・講習会等の開催

今年は、都市公園制度制定 150 周年であるとともに、関東大震災から 100 年の節目の年であることも踏まえ、9月1日に「しなやかな国土形成の基盤“みどり”と公園緑地」をテーマとする記念講演会を開催した。涌井史郎東京都市大学特別教授による基調講演などを行った。

また、講習会についても、都市公園制度制定 150 周年と呼応した内容として実施し、10月4～6日に実施した「公園緑地総合講習会」においては、進士五十八元福井県立大学学長の基調講演、12月12日に実施した「これからの公園緑地」講習会においては、蓑茂寿太郎元公園財団理事長の基調講演をそれぞれ行った。

③全国大会の開催

「ひろげよう 育てよう みどりの都市」全国大会は、10月25日に第一部、10月27日に第二部をそれぞれ開催した。第一部は国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、都市公園制度制定 150 周年記念講演・先進事例発表会として開催し、高梨雅明日本公園緑地協会会長の基調講演や都市公園コンクールの大臣賞受賞作品の発表などを行った。また、第二部はイイノホールにおいて開催し、主催者挨拶、来賓挨拶、表彰などに続き、全国都市公園等整備促進協議会の会長である松戸徹船橋市長による講演「都市公園制度制定 150 周年記念 未来の“みどり”をどう描き、実現していくか」、横張真東京大学教授による講演「都市の緑空間をめぐる新たなパースペクティブ」などを行った。(資料 2)

(2) 広報活動

①機関誌「公園緑地」における都市公園制度制定 150 周年記念特集

令和 5 年発行の機関誌「公園緑地」第 83 巻第 4 号から第 84 巻第 3 号までの 5 つの号において、都市公園制度制定 150 周年記念特集を掲載した。各号では、巻頭論説(進士五十八、

涌井史郎、横張真、蓑茂寿太郎、池邊このみの各氏による論説)を設けるとともに、「日本の公園 150 年史」について越澤明北海道大学名誉教授による特別連載を掲載している(連載は継続中)。また、太政官公園のこれまでとこれからをテーマに全国の太政官公園のリレー連載を行っている。これらの特集と全国大会・講演会・講習会等との連携を強化し、効果的な広報に努めた。(資料 3)

②ポータルサイトの設置

日本公園緑地協会ホームページにおいて関連のポータルサイトを設置し、適時の情報発信を行った。

③ロゴマークの作成と配布(前掲)

推進委員会よりランドスケープコンサルタンツ協会に依頼し、都市公園制度制定 150 周年記念のロゴマークを作成した。ロゴマークは、推進委員会より、地方公共団体、関係団体等へ配布するとともに、日本公園緑地協会及びランドスケープコンサルタンツ協会ホームページに掲載しその普及を図った。(資料 8)

④広報素材「都市公園 150 年のあゆみ」の制作

広報素材「都市公園 150 年のあゆみ」を制作し、各方面において広報活動に活用いただくため日本公園緑地協会ホームページに掲載した。また、貸出用パネルを作成し、国営公園、地方公共団体等において普及啓発素材として活用いただいた。国土交通省では、4 月 14 日から 27 日までの間 1 階ロビーにおいてパネル展示が行われたほか、全国大会等の機会に展示を行った。(資料 4)

⑤みどりの日新聞キャンペーン

5 月 4 日には、日本経済新聞朝刊紙面において、「誕生から 150 周年 さらに「使われ活きる」都市公園へ」をテーマとした「みどりの日」新聞キャンペーンを実施した。掲載記事では、小野良平立教大学教授(日本造園学会会長、当時)へのインタビュー等を行った。(資料 3)

(3) 顕彰事業

①都市公園等コンクールの都市公園制度制定 150 周年記念部門

令和 5 年度第 39 回都市公園等コンクールにおいて、新たなライフスタイルを牽引する取り組み、複合領域の連携や様々なステークホルダーの連携により新たな価値を創出する取り組み、多くの公園利用者のウェルビーイングの向上に資する取り組みなど、都市公園の未来を牽引する先進的な取り組みを対象とする「都市公園制度制定 150 周年記念部門」を設け募集を行った。多数の応募があり、同部門では国土交通大臣賞 2 件、国土交通省都市局長賞 1 件、日本公園緑地協会会長賞 2 件、審査委員会特別賞 2 件が選定された。

②都市公園制度制定 150 周年記念公園施設登録

都市公園制度制定以降 150 年にわたる長い歴史の中で、都市公園が国民の暮らしやライフスタイルを投影しながら果たしてきた役割を振り返り、これらを象徴し、かつ現存する公

園施設を登録の上、先人が築いてきた公園整備のプロセスや市民とのかかわりの歴史としてこれらの公園施設の事跡を記録し、広く国民に周知するとともに次世代に伝えることを通じて、都市公園に対する関心の喚起や意義等の再認識を促し、都市公園の更なる発展に寄与することを目的とする「都市公園制度制定 150 周年記念公園施設登録」を実施した。実施に当たり、都市公園制度制定 150 周年記念公園施設登録有識者会議(座長:涌井史郎東京都市大学特別教授)を設置し、登録基準、申請方法等の検討及び公園施設登録候補案の作成を行い、推進委員会において決定した。

3. 関係団体の取り組み

関係団体においては、実施方針を踏まえ、様々な取り組みが実施された。以下ではそのうち主な取り組みを紹介する。

(1) (公財)都市緑化機構

都市緑化機構では、全国都市緑化フェア、春季における都市緑化推進運動期間、毎年 10 月と定められている都市緑化月間などの機会をとらえ、都市公園をはじめとする都市における身近な緑の空間の重要性に対する理解の促進と市民の都市緑化意識の高揚のため、積極的な活動を行った。

4 月 26 日から 6 月 18 日まで、宮城県仙台市において開催された第 40 回全国都市緑化仙台フェアは、「杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く」をテーマに、仙台の歴史・文化の象徴でもある青葉山エリアにおいて、市民協働による大花壇づくりや、造園業者・自治体等が参加しての庭園出展などが行われた。また、全国都市緑化仙台フェアの中心的な行事として、5 月 24 日に、佳子内親王殿下のご臨席のもと、令和 5 年度全国都市緑化祭を開催した。さらに、6 月 10 日には、関連行事として、仙台市民会館において、「未来の杜せん дай 2023 シンポジウム『未来につなぐ新しい杜の都の姿』」と題し、「杜の都」の緑を守り育ててきたこれまでの取り組みや、緑のある屋外空間での新たな楽しみ方などに関するシンポジウムを開催した。

都市緑化月間中の 10 月 6 日には、東京都千代田区の有楽町駅前広場において、斎藤鉄夫国土交通大臣を来賓として迎え、都市緑化キャンペーンを開催し、花鉢配布などを実施した。(資料 5)

また、10 月 26 日には、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、「防災公園技術研修会 2023 東京『関東大震災 100 年を踏まえた、防災公園の計画・整備』」と題し、改めて地震災害からの教訓を認識し、これからの安全・安心まちづくりに資する防災公園の今後の方向、計画・設計技術について広く紹介することを目的として、研修会を開催した。

他に、春季における都市緑化推進運動期間及び 10 月の都市緑化月間には普及啓発ポスタ

ーを作成し、国、地方公共団体、緑化関係団体、日本商工会議所の会員、日本民営鉄道協会加盟の私鉄各社等に配布し掲示した。

(2) (一財)公園財団

公園財団では、管理を担当する国営公園において、都市公園制度制定 150 周年を記念する様々な活動を実施した(詳細は国営公園の項参照)。また、公園財団が管理する都市公園において、都市公園制度制定 150 周年記念事業のロゴと説明文が入ったミニノートを来園者に記念に配布した。

2月21日には、都市公園制度制定 150 周年記念事業として「都市公園の管理運営を再デザインする！」をテーマに公園管理運営フォーラムを開催し、蓑茂寿太郎財団理事長(当時)の基調講演などを行った。12月21日には、令和4年10月にとりまとめられた都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言「都市公園新時代～公園が生きる、人がつながる、まちが変わる～」を踏まえ、「都市公園新時代～より柔軟な公園利活用と新たな担い手との共創～」をテーマとするセミナーを開催した。(資料6)

公園財団が事務局を担当している WUP ジャパンでは、「世界公園週間 2023/期間 4月22日～4月30日」において、「2023 marks the 150th Anniversary of the Establishment of Public Parks in Japan」と題した記事を投稿し、海外に向けて情報発信を行った。本記事は、WUP のニュースレター(4月号)やウェブサイトに掲載された。(資料7)

(3) (一社)ランドスケープコンサルツ協会

ランドスケープコンサルタンツ協会では、推進委員会からの依頼を受けて、ロゴマークの制作を行った。(資料8)

また、機関誌 CLA ジャーナル第 183 号において、都市公園制度制定 150 周年を記念した特集を掲載するとともに、これと連携し、1月27日には、ランドスケープ・フォーラム「都市公園制度 150 周年 都市公園の歴史・今・未来を語ろう」を開催した。また、8月29日には、特別セミナーとして「グリーンウェッジアーバニズム」、9月26日には、都市ビジョンセミナーとして「『都市公園新時代を考える』都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言を踏まえて」をそれぞれ開催した。(資料9)

(4) 関西地域～関西地域の緑・公園関係団体支部及び(公財)国際花と緑の博覧会記念協会

関西地域の緑・公園関係団体の各支部等は、実行委員会を組織し、(公財)国際花と緑の博覧会記念協会との共催により、「都市公園制度制定 150 周年記念フォーラム in Kansai」と題し、「関西における都市公園の成り立ちと今後の展開」をテーマとするフォーラムを8月18日に開催した。本フォーラム実施にあわせて、国際花と緑の博覧会記念協会では、記念冊子「関西5園の歴史と未来」を作成した。(資料10)

4. 国営公園の取り組み

全国の国営公園では、それぞれの公園の特徴にあわせて様々な関連イベント等が実施された。以下では、そのうち特徴的なものを紹介する。

・国営木曾三川公園

国営木曾三川公園では、巨大こいのほりのデザインを都市公園制度 150 周年仕様のものとしたほか、150 周年記念事業としてリバーサイドフェスティバルなどが実施された。(資料 11)

・淀川河川公園

淀川河川公園では、同公園の開園 50 周年と連動して都市公園制度 150 周年を記念する取り組みが行われた。太政官布告が発出された 1 月 15 日にちなみ、1 月 14 日～1 月 22 日の期間「展望塔グリーンライトアップ」が実施された。また、「背割堤 夏の休日 2023」をはじめ様々な連携イベントが実施された。

・国営明石海峡公園

国営明石海峡公園では、150 周年を記念した「地上絵」が登場し好評を博したほか、春のカーニバルなど都市公園制度制定 150 周年を記念する様々な関連イベントが実施された。(資料 12)

・海の中道海浜公園

海の中道海浜公園では、春季のフラワーピクニック期間中に、クジラの顔と 150 周年を記念した芝絵「クジラ山の地上絵」が制作され、記念写真撮影コーナーも設けられたほか、「150 周年記念特別サイト」が公開され、公園を含めた地域の変遷や歴史情報が発信された。また、秋季は「150 周年記念パネル展」と公園の歴史を学ぶ「うみなか検定」が開催された。冬季のうみなかキャンドルナイトでは、1 万本のキャンドルアートにあわせ「150 周年記念ロゴ」が市民協働により制作された。(資料 13)

・国営沖縄記念公園

国営沖縄記念公園では、都市公園制度制定 150 周年記念事業として、美ら海花まつり「春到来！彩（いろどり）廻り」が開催され、春の花・夏の花を中心に多種多様な花の展示が行われた。(資料 14)

・「都市公園 150 年のあゆみ」パネル展

各国営公園では、日本公園緑地協会作成の「都市公園 150 年のあゆみ」パネルを活用した広報活動が行われた。国営昭和記念公園では、同公園の開園 40 周年を記念する展示等が行われ、これと呼応して「都市公園 150 年のあゆみ」のパネル展示が行われた。また、国営讃岐まんのう公園では、同時開催の「瀬戸内海国立公園展」との合同によるパネル展示が行われた。(資料 15)

5. 地方公共団体の取り組み

全国の地方公共団体では、それぞれの地域の特徴に応じた都市公園制度 150 周年に関連する様々な取り組みが行われた。150 周年を迎える公園がある地方公共団体においては、これらの公園を中心とした取り組みが展開された(明治 6 年に開設した東京 5 公園のある東京都や関連の区、大阪府、新潟市など)。また、同時に迎えた周年事業と連携した取り組みも多く見られた(千葉県誕生 150 周年、岐阜県の養老公園県営化 100 周年、国営昭和記念公園開園 40 周年、淀川河川公園開園 50 周年など)。さらには、仙台市では全国都市緑化フェアと連携した取り組み、横浜市では 2027 年横浜国際園芸博覧会と連携した取り組みが行われた。

都市公園制度 150 周年を迎えた機会をとらえて、いくつかの地方公共団体では、公園の柔軟な利活用に資する企画が実施された。東京都では、「都立公園で、あなたのやりたいことかなえます」と題し、広く都民から都立公園で実施したい企画を募集し、最優秀として選定した企画を実際に実施した。東京都北区の飛鳥山公園では、本年を「これまでの 150 年を振り返り、これからの 150 年を目指す挑戦の年」と位置付け、みんなで一緒に飛鳥山公園の使いこなし方を考える「飛鳥山公園 150 の夢」の募集が行われた。

また、横浜市では、「地域の仲間とこんなことをやってみたい」、「自分の会社でこんなことをしてみたら楽しいのではないか」と思う、自由な発想による企画の募集が行われた。さらに、熊本市では、「150 周年記念！公園へ行こう in winter～冬の都市公園を使いこなす利用促進キャンペーン～」、「150 周年記念！公園へ行こう in autumn～心地よい秋の季節の都市公園を使いこなす利用促進キャンペーン～」と題して、イベント等に伴う公園使用料を無料とし、公園利用の促進に資する取り組みが行われた。

こうした柔軟な公園利用の促進、公園利用の活性化に資する取り組みが積極的に展開されたことは、今回の都市公園制度制定 150 周年記念事業の特徴のひとつである。

以下では、これらのうち代表的な事例を紹介する。

(1) 東京都及び関係区

① 東京都

東京都では、都立公園の指定管理者等の関係団体等から構成される実行委員会を組織し、東京都を主体として、これまでの都立公園の歴史や果たしてきた役割を振り返りつつ、公園の意義・必要性を都民一般に広く再認識してもらうことや将来に向けた公園のあり方を提案・発信していくことにより今後の都立公園の更なる発展を図るため、関係者が協力して東京都都市公園制度制定 150 周年記念事業を展開した。

同事業は、150 周年を迎えた公園を中心に全都立公園において実施された。令和 4 年 12 月に行われた駒沢オリンピック公園におけるキック・オフ・イベントに始まり、令和 6 年 3

月までそれぞれの都立公園の特徴に対応した様々なイベントが行われた。実行委員会では、専用のポータルサイトを設け、イベントカレンダーでは、盛りだくさんのイベント等について、その実施状況が随時掲載された。(資料 16、17)

また、公園布告が発出された 1 月 15 日や上野公園・芝公園の誕生日に当たる 10 月 19 日を中心として、都庁をはじめ都の施設や民間施設において、緑のライトアップ(一部施設においては別仕様)が実施された。(資料 18)

上野恩賜公園では、誕生日に当たる 10 月 19 日から 22 日までの間、「上野恩賜公園開園 150 周年総合文化祭」が盛大に開催された。同公園内の竹の台広場に特設ステージが設けられ、上野の魅力を感じられるステージコンテンツが 4 日間に渡り繰り広げられた。19 日にはシンポジウム「『上野への愛』で上野の山・池の未来を語る」を開催、21 日には開園 150 周年の記念式典が行われた。式典では、記念植樹が行われたほか、東京都立総合芸術高等学校の生徒が作曲・振り付けした「うえのん」(上野恩賜公園公式キャラクターで都立公園 150 周年記念事業特別アンバサダー)のテーマ曲と曲に合わせたダンスが披露された。また、公園全体に様々なイベントブースが設けられ、同公園は祝祭ムードに彩られ大変な盛り上がりとなった。このほか、フォトスポットの設置、新品種のサクラの命名、デジタルスタンプラリーなどの催しが開催された。(資料 19、20、21)

芝公園では、10 月から 11 月にかけて「都立芝公園開園 150 周年イベント～これまでの 150 年これからの 150 年～」が開催された。芝公園の歴史をめぐるガイドツアーや、学生による演奏、かぼちゃの絵付け、リレー書道、モルック体験など、子どもも大人も楽しめるワークショップ、花と光のムーブメント「芝公園×150th anniversary」などが行われた。11 月 3 日には、「わがまちの愛しき公園たち」と題する特別セミナーが東京プリンスホテルにおいて開催された。東京太政官 5 公園の地元関係者等が一堂に会し、それぞれの公園や地域の魅力を語り合う出色のセミナーとなった。(資料 22-1、22-2)

また、前掲の通り、「都立公園で、あなたのやりたいことかなえます」と題し、広く都民から都立公園で実施したい企画を募集し、最優秀企画として選定した企画を実施する募集企画が行われ、選定された最優秀企画は順次実施された。募集企画としてはこのほか、「あなたが行ってみたい将来の都立公園」をテーマとする「こどもたちが描く将来の都立公園絵画コンクール」、「都立公園って楽しい！」をテーマとした「あなたの一押しフォトコンテスト」、「都立公園 150 周年おめでとう！フォトモザイクアートパネル展示」などが実施された。(資料 23、24)

さらに、都立公園でのイベント等に加え、新宿駅西口広場でのパネル展の開催、地下鉄との協働によるスタンプラリー、レインボーブリッジやフジテレビ社屋等のライトアップ、各区や民間事業者が実施するイベントとの協働・協賛など地域や民間企業等を巻き込んだ多彩な関連イベントが展開された。

(公財)東京都公園協会では、専門誌『都市公園』238 号において「特集 都市公園制度制定 150 周年」を掲載するとともに、広報誌『緑と水のひろば』の特別号として「都立公園

150年のあゆみ」を発行した。(資料25、26)

令和5年が、関東大震災の発生から100年目を迎える年であることから、東京都では関東大震災100年を契機としたムーブメントの展開として、関係区による復興小公園の再生を後押しすべく、パンフレット「復興小公園の再生」を作成した。これに呼応し、関係区ではホームページに特設サイトを設けるとともに、震災復興小公園説明板の設置やまちあるきマップの作成などの取り組みが行われた。(資料27)

②東京都北区(飛鳥山公園)

東京5公園のひとつ飛鳥山公園のある東京都北区では、区の広報誌の新春号において、公園の特集が企画された。また、飛鳥山公園では、関係団体・企業からなる飛鳥山150周年プロジェクト事務局が設置され、Park-PFIにより整備された施設のオープンとも歩調をあわせ、数次にわたる記念イベントが実施された。5月13日に開催された第1弾では、「150の夢がはじまる」と題して、公園を会場に「これからの公園について考える。」をテーマにトークセッションが行われた。山田加奈子新区長も登壇し、充実したトークが展開された。また、前掲の通り「飛鳥山公園150の夢」の募集が行われた。(資料28、29)

③東京都江東区(深川公園)

同じく東京5公園のひとつ深川公園のある東京都江東区では、150周年を記念して地元の町会・商店会・区民などが中心となって結成した民間団体「深川門前仲町景観まちづくりの会」が、「日本初の都市公園 深川公園ありがとう150年」と題する記念イベントを開催した。10月1日から11月27日に深川公園・富岡八幡宮・深川不動堂にちなんだクイズラリーを開催したほか、11月11日には富岡区民館で深川公園の歴史をテーマにした講演会「深川公園の歴史」や関係者による植樹祭が行われた。(資料30)

(2) 大阪府

大阪府では、専用のポータルサイトを設けるとともに、150周年を迎えた住吉、浜寺両公園をシンボライズした独自のロゴマークを作成するとともに、両公園を中心に、様々な記念事業が実施された。7月26日には、吉村洋文知事の記者会見において、「都市公園制度制定150周年記念事業について」が取り上げられ、両公園において実施される記念イベント、150周年を契機にオープンする主な施設やイベント等についての発表が行われた。(資料31)

住吉公園では、平成30年よりリーフレット「住吉公園歴史探訪」を発行するなどの取り組みが行われ、その集大成として記念誌「住吉公園と住吉さん 住吉大社から生まれて150年」が発刊された。この書籍の出版記念イベントを兼ねて、8月5日に住吉大社吉祥殿において「住吉公園 歴史探訪フォーラム」が開催された。フォーラムでは、越澤明北海道大学名誉教授の基調講演、記念誌の執筆陣による講演やトークセッションが行われた。公園内では、「すみすみ公園フェスタ」をはじめ年間を通じて多くの記念イベントが開催された。(資

料 32)

浜寺公園では、9月30日に同公園内にある大阪府羽衣青少年センターにおいて記念フォーラム「浜寺公園 150 年のあゆみ」が開催され、橋爪紳也大阪府特別顧問の基調講演等が行われた。また、公園内では、「子どもが主役 MIRAI～みんなみんなつながっている～」など、年間を通じて多彩な記念イベントが展開された。(資料 33)

11月5日には、浜寺公園をメイン会場、住吉公園をサブ会場として、「都市公園制度制定 150 周年記念おおさか都市緑化フェア」が盛大に開催された。同日は、「阪堺電車貸切運行～レトロ車両で行く歴史探訪旅行～」として、住吉公園と浜寺公園を結んで 2 往復の記念車両の運行が行われた。車内では、上記住吉公園の記念誌の著者である水内俊雄大阪公立大学客員教授の歴史講話が開催された。(資料 34、35)

さらには、大阪府では、これらの記念事業等の実施に合わせ、Instagram での「フォトコンテスト」や「スタンプラリー」など、新たな公園施設の利用やイベントへの参加を通じて、府営公園の魅力を発見する取り組みとして、すてきな公園「みっけ」プロジェクトが実施された。

(3)政令指定都市

① 仙台市

仙台市では、4月26日から6月18日まで、青葉山公園等をメイン会場として、第40回全国都市緑化仙台フェアが開催され、約115万7千人の来場があった。「杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く」をテーマに、仙台の歴史・文化の象徴でもある青葉山エリアにおいて、市民協働による大花壇づくりや、造園業者・自治体等が参加しての庭園出展などが行われた。また、全国都市緑化仙台フェアの中心的な行事として、5月24日に、佳子内親王殿下のご臨席のもと、令和5年度全国都市緑化祭を開催した。さらに、6月10日には、杜の都の環境をつくる条例制定50周年、都市公園制度制定150周年を記念して、仙台市民会館において、未来の杜せんだい2023シンポジウム「未来につなぐ新しい杜の都の姿」が開催された。自然に恵まれた仙台のまちの特徴やみどりとの共生のあり方について、涌井史郎東京都市大学特別教授の基調講演やパネラーによるトークセッションが行われ、仙台ならではのみどり空間の魅力やこれらを利活用したエリアの価値の向上の取り組みなどについて情報発信が行われた。(資料 36、37)

② 横浜市

2027年に国際園芸博覧会の開催が予定されている横浜市では、公園を起点として魅力あるまちづくりをより一層進めるため、都市公園制度制定150周年記念事業「はま・ゆめパーク」として、自由な発想による公園活用企画を広く募集し、提案のあった企画のなかから15件が選考された。横浜市では、これらの企画の実現に向けて調整を進め、本取組を通じ

て、横浜を含む一都三県で初めての万博となる 2027 年国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」の開催へとつなげていくこととしている。(資料 38)

また、11 月 2 日には、神奈川近代文学館において、都市公園制度制定 150 周年記念シンポジウム「横浜の公園 150 年とこれから～GREEN×EXPO 2027 に向けて～」が開催され、国際園芸博覧会に向けた機運醸成が図られた。シンポジウムでは、伊藤康行国土交通省公園緑地・景観課長の基調報告、進士五十八東京農業大学名誉教授の基調講演などが行われた。(資料 39)

③ 新潟市

新潟市では、明治 6 年に太政官布告により開設した白山公園において、写真展、パネル展、竹あかりライトアップ、公園探訪ガイドツアー、まち歩きなど 150 周年を記念する多くのイベントが開催された。

④ 熊本市

熊本市では、都市公園の魅力をもっと発信し、市民に一層親しまれるよう、一年を通じて様々な取り組みが展開された。1 月から 3 月には、「150 周年記念！公園へ行こう in winter～冬の都市公園を使いこなす利用促進キャンペーン～」、10 月から 11 月には、「150 周年記念！公園へ行こう in autumn～心地よい秋の季節の都市公園を使いこなす利用促進キャンペーン～」と題し、身近な公園の役割を改めて認識し、今後の利活用のあり方などを考える機会とすべく、イベント使用料を減免するキャンペーンが実施された。

また、1 月 15 日には、熊本城天守閣の緑のライトアップが実施されたほか、4 月から 5 月には、令和 4 年「緑の都市賞」内閣総理大臣賞を踏まえ、産官学民で連携して取り組んでいく緑のスポットを巡るデジタルスタンプラリーなどが実施された。(資料 40)

(4) その他の取り組み事例

以上紹介した事例のほか、各地方公共団体において都市公園制度制定 150 周年を記念する様々な取り組みが行われた。

千葉県では、令和 5 年が千葉県誕生から 150 周年の年となることから、都市公園制度制定 150 周年記念とタイアップした取り組みが行われた。千葉県誕生・都市公園 150 周年記念 県立都市公園スタンプラリーが実施されたほか、県庁本庁舎や県立都市公園では巡回形式でのパネル展「都市公園 150 年のあゆみ」、県立青葉の森公園では 11 月 11 日に「千葉県誕生・都市公園 150 周年記念 あおばまつり」が開催された。

岐阜県では、太政官布告により設置された県営養老公園が、県営化してから 100 周年という節目をむかえることから、これと呼応して独自のロゴマークを制作するとともに、同公園において、年間を通じて様々なイベントが実施された。

愛知県では、県営大高緑地において開催されたあいち都市緑化フェアやあいちで発見インスタフォトコンテストが都市公園制度制定 150 周年記念事業として開催された。また、愛知県一宮市では、国営木曾三川公園とタイアップし、「いちのみやリバーサイドフェスティバル」や「いちのみや秋の緑化フェア」が同公園を会場として 150 周年記念事業として実施された。

また、令和 5 年は、関東大震災から 100 年という節目となったことから、関東大震災に関連する催しも東京都、神奈川県を中心に数多く実施された。講演会、シンポジウムのほか、博物館等の施設において様々な展示が行われた。8 月 28 日には、東京ビッグサイト国際会議場において、国土交通省主催の「関東大震災 100 年シンポジウム」が開催されるとともに、8 月 26 日から 28 日にかけて、関東大震災から最新の防災技術まで、子どもから大人まで楽しめる防災に関するコンテンツが多数出展した「関東大震災特別企画展」が国営東京臨海広域防災公園において開催された。